

# 研究の目的と経過

## 1. 研究の目的

本研究は、器物の保有形態として古墳時代に顕在化する「伝世・長期保有」、それを背景とした製作指向性としての「復古再生」の実態を分析することにより、王権の形成・維持の観点から「伝世・長期保有」および「復古再生」がもつ社会的意義と歴史的意義の解明を目的とする。そのために、多角的かつ俯瞰的に「伝世・長期保有」と「復古再生」を検討する。

具体的には、第一に器物の「伝世・長期保有」を実証する方法論を整備する。第二に「伝世・長期保有」の過程を解析する方法を吟味する。第三に「伝世・長期保有」が背景となつてなされる器物の「復古再生」の内容を把握する。そのうえで、「伝世・長期保有」あるいは「復古再生」された器物の偏在性や特質を明らかにし、その器物が有した社会的意義に論及する。さらに、「伝世・長期保有」や「復古再生」にみるレガリアの創出・維持と王権のかかわりを考察し、日本列島史におけるこれら諸現象がもつ歴史的意義を明らかにする一助とすることをめざす。

こうした目的のもと、本研究では銅鏡・各種青銅器・玉類・武器・武具・馬具といった古墳副葬品を主たる対象とし、銅鐸や武器形青銅器といった弥生時代の青銅祭器の保有実態、王権により「伝世」がなされた器物としての正倉院宝物の内容と形成過程を比較材料としてつつ検討を試みることにした。

## 2. 研究体制

研究活動にあつた組織は以下のとおりである。

研究代表者 岩本 崇 (島根大学学術研究院人文社会科学系・准教授)

研究分担者 上野 祥史 (国立歴史民俗博物館・准教授)

大賀 克彦 (奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所・特任講師)

阪口 英毅 (京都大学大学院文学研究科・助教)

川畑 純 (独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・主任研究員)

諫早 直人 (京都府立大学文学部・准教授)

金 宇大 (滋賀県立大学人間文化学部・准教授)

吉田 広 (愛媛大学ミュージアム・教授)

吉澤 悟 (独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・部長)

研究協力者 水野 敏典 (奈良県立橿原考古学研究所企画学芸部企画)

久住 猛雄 (福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課)

細川晋太郎 (宮内庁三の丸尚蔵館)

村瀬 陸 (奈良市埋蔵文化財調査センター)

磯貝 龍志 (岐阜県文化財保護センター)

このほかにも調査研究の内容に応じて、複数の研究者から協力を得た。

### 3. 研究の経過

研究活動は、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれの研究対象とする器物の「伝世・長期保有」ならびに「復古再生」について調査研究をおこない、成果の共有とそれをふまえた討議をおこない、研究代表者の統括のもと共同研究としてとりまとめることとした。そのため、個々の研究成果を共有する場として共同研究会を開催した。また、研究活動において参照すべき一次資料については、共同調査を実施して高精度な二次資料化に取り組んだ。なお、2020年以降は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて、共同研究会をオンラインないしハイフレックス方式で開催することも試行した。この感染症が研究活動において多大なる影響を与えたことをここに明記しておきたい。

以下、研究参加者が個々に実施した研究活動については割愛し、共同研究としてとりおこなった活動についてのみ内容ごとに時系列に沿って記述する。

#### (1) 共同研究会

研究参加者が一堂に会し、個々が実施した研究成果を共有し議論をおこなう場として、共同研究会をおよそ年2回のペースで開催した。事前の打ち合わせを含めて、4年間の研究期間のなかで8回の場を設定し、「伝世」ならびに「復古再生」について議論をおこなった。

- ① 2019年5月19日 事前打ち合わせ〔於：駒澤大学（日本考古学協会第85回総会時）〕
  - ・研究活動の内容確認、第1回共同研究会の発表者選定
- ② 2019年8月25日 第1回研究会〔於：奈良女子大学〕
  - ・趣旨説明、分担内容の確認
  - ・研究報告
    - 古墳出土鏡の「伝世」にかんする実証的研究序説（岩本）
    - 伝世鏡をめぐる認識（上野）
    - 玉からみた「伝世」（大賀）
  - ・総合討議
- ③ 2020年3月8日 第2回共同研究会〔於：奈良女子大学〕
  - ・研究報告
    - 弥生青銅器の長期保有、そして「伝世」・「復古再生」（吉田）
    - 画文帯神獣鏡の編年と副葬状況にみる「長期保有・伝世」鏡の認識（村瀬）
    - 〈主に〉北部九州の考古資料から見た弥生時代中期後半～古墳時代前期（中期）の暦年代比定とその課題」（久住）
  - ・総合討議
- ④ 2020年9月20日 第3回共同研究会〔於：zoom会議室（オンライン開催）〕
  - ・研究報告
    - 古墳時代前・中期における鉄製環頭大刀の試論的検討（金）
    - 馬具に伝世（長期保有）はあるのか（諫早）
    - 古墳時代鉄製武器における「伝世」の考え方（水野）
    - 献物帳から正倉院宝物の伝世を考える（細川）
  - ・総合討議

- ⑤ 2021年3月27日 第4回共同研究会〔於：奈良女子大学・zoom会議室（ハイフレックス開催）〕
- ・研究報告
    - 東大寺金堂鎮壇具の大刀類にみる「修理痕」について（吉澤）
    - 鉄製農工具の伝世・長期保有・復古再生について（磯貝）
  - ・総合討議
- ⑥ 2021年8月21日 第5回共同研究会〔於：奈良女子大学・zoom会議室（ハイフレックス開催）〕
- ・研究報告
    - 古墳時代倭鏡における「復古再生」（岩本）
    - 玉からみた「復古再生」（大賀）
    - 鏡の分与・分配と器物の伝世について（上野）
  - ・総合討議
- ⑦ 2022年3月6日 第6回共同研究会〔於：奈良女子大学・zoom会議室（ハイフレックス開催）〕
- ・研究報告
    - 埴輪の復古再生（村瀬）
  - ・総合討議
- ⑧ 2022年7月31日 第7回共同研究会〔於：奈良女子大学〕
- ・研究報告
    - 古墳時代の甲冑と伝世・長期保有（川畑）
    - 弥生時代後期前後の北部九州における漢鏡の伝世（久住）
  - ・総合討議

## （2）共同調査

研究活動を進めるうえで二次資料化が不可欠であると考えた資料群にたいして、研究参画者を中心とした共同調査を実施した。期間中におこなった共同調査は5回を数える。これにより、奈良県大和天神山古墳の出土品については、今日的な研究水準にみあった実測図作成と写真撮影を完了することができた。その成果報告については、本書とは別におこなう予定となっている。

- ① 2019年8月23・24日 第1回共同調査（大和天神山古墳出土品）〔於：奈良国立博物館〕
- ② 2019年11月19～21日 第2回共同調査（本間美術館所蔵古墳時代資料）〔於：本間美術館〕
- ③ 2019年12月13・14日 第3回共同調査（大和天神山古墳出土品）〔於：奈良国立博物館〕
- ④ 2020年2月13・14日 第4回共同調査（大和天神山古墳出土品）〔於：奈良国立博物館〕
- ⑤ 2020年9月2～4日 第5回共同調査（山口県白鳥古墳・阿多田古墳出土品）〔於：平生町歴史民俗資料館〕

## 4. 研究成果

4年間の研究期間において、図書、論文、口頭発表などの形で、代表者ならびに分担者が公表した本研究に関連する研究成果の主要なものは下記のとおりである。なお、本書は以下の研究成果をふまえた、本研究課題の総括的な位置を占めるものとなる。

### 図書

- ・岩本 崇 2020『三角縁神獣鏡と古墳時代の社会』六一書房 全518頁

- ・諫早直人（監修・翻訳）2022『馬に乗った加耶 加耶馬具特別展』国立金海博物館 全288頁
- ・定松佳重・田村朋美・難波洋三・村田泰輔・森岡秀人・柳田明進・的崎 薫・山崎裕司・吉田 広・和田晴吾  
2021『松帆銅鐸調査報告書Ⅱ－調査研究編一』南あわじ市教育委員会 全174頁・図版65頁・写真図版  
65頁
- ・松尾充晶・吉田 広・村田裕一・増田浩太・澤田正明 2022『荒神谷遺跡青銅器群の研究』島根県古代文化センター  
全198頁

#### 論文等

- ・岩本 崇 2019「三角縁神獣鏡生産の展開と製作背景」『銅鏡から読み解く2～4世紀の東アジア』アジア遊  
学237 勉誠出版 pp.126-147
- ・岩本 崇 2020「荒尾南遺跡の青銅器と古墳出現期前後の青銅器生産」『荒尾南遺跡を読み解く～集落・墓・  
生業～』第34回考古学研究会東海例会 考古学研究会東海例会 pp.76-95
- ・岩本 崇 2021「東之宮古墳の鏡」『東之宮古墳の研究はどこまで進んだのか』第4回東海古墳時代研究会  
pp.12-17
- ・岩本 崇 2021「福岡県勝浦峯ノ畑古墳出土鏡群の再検討」『島根大学法文学部紀要 社会文化論集』第17  
号 島根大学法文学部社会文化学科 pp.43-54
- ・岩本 崇 2021「「伝世」した同範鏡の一例—鳥取県中西尾6号墳出土の画文帯環状乳神獣鏡をめぐって—」『島  
根考古学会誌』第38集 島根考古学会 pp.47-60
- ・岩本 崇 2021「古墳時代倭鏡の鑄掛け」『昼飯の丘に集う—中井正幸さん還暦記念論文集』「中井正幸さん  
の還暦をお祝いする会」事務局 pp.23-32
- ・岩本 崇 2021「三角縁神獣鏡の成立」『古墳文化基礎論集』古墳文化基礎論集刊行会 pp.21-30
- ・岩本 崇 2022「いわゆる「奥才型木棺」と古墳時代の集団関係」『島根大学法文学部紀要 社会文化論集』  
第18号 島根大学法文学部社会文化学科 pp.71-90
- ・岩本 崇 2022「中期古墳年代論—相対編年とその暦年代—」『中期古墳研究の現状と課題VI～新編年で読み  
解く地域の画期と社会変動～』中国四国前方後円墳研究会第25回研究集会 中国四国前方後円墳研究会  
pp.1-19
- ・岩本 崇 2022「副葬品からみた古墳時代前・中期の首長墓系譜」『首長墓系譜の再検討』古代学研究会  
2022年度拡大例会シンポジウム 古代学研究会 pp.83-102
- ・岩本 崇 2022「安満宮山古墳と弁天山古墳群」『淀川流域の古墳時代—太田茶白山古墳と今城塚古墳をめぐ  
って—』季刊考古学別冊39 雄山閣 pp.15-24
- ・岩本 崇 2023「鏡からみた沖ノ島祭祀の展開」『沖ノ島研究』第8号 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺  
産群保存活用協議会（印刷中）
- ・諫早直人 2020「日韓における馬冑・馬甲研究の現状と課題」『柳本照男さん古稀記念論集—忘年之交の考古  
学—』柳本照男さん古稀記念論集刊行会 pp.151-160
- ・諫早直人 2020「綿貫観音山古墳出土馬具の系譜と製作地」『綿貫観音山古墳のすべて』群馬県立歴史博物館  
pp.198-207
- ・諫早直人 2020「일본 출토 마주와 마감 - 연구 동향과 출토 사례 소개 -」『말 갑옷을 입다』国立慶州文化  
財研究所・国立慶州博物館 pp.158-181
- ・諫早直人 2020「왜의 마구와 가야」『말을 탄 가야 加耶馬具特別展』国立金海博物館 pp.274-289
- ・諫早直人 2021「曹操高陵出土馬具が語るもの」『技と慧眼—塚本敏夫さん還暦記念論集—』塚本敏夫さん還  
暦記念論集事務局 pp.21-32

- ・諫早直人・馬淵一輝 2021「京田辺市トヅカ古墳出土遺物の再検討」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第7号 京都府立大学文学部歴史学科 pp.47-76
- ・真鍋成史・鈴木瑞穂・諫早直人 2021「交野市内出土鉄製品・鉄塊系遺物の調査成果について」『交野市の金属製品』交野市教育委員会 pp.53-58
- ・諫早直人 2022「大和の木製鞍と古墳時代の馬匹利用」『国家形成期の近畿地方における馬と塩の関係に関する基礎的研究』奈良県立橿原考古学研究所 pp.103-110
- ・諫早直人 2022「古墳出土馬具と仏教工芸—竹原市横大道1号墳出土馬具の紹介を兼ねて—」『聖地霊場の成立についての分野横断的研究』(京都府立大学文化遺産叢書 第25冊) pp.25-42
- ・諫早直人 2022「湯舟坂2号墳出土具装馬具、もう一つの海の道」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅱ—出土品研究の最前線—《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室 pp.24-25
- ・諫早直人 2022「馬具の暦年代論と古墳時代中期の対外交渉」『中期古墳研究の現状と課題～新編年で読み解く地域の画期と社会変動～ 発表要旨集・資料集』中国四国前方後円墳研究会 pp.21-42
- ・上野祥史 2019「南北朝時代に保有した鏡」『古墳と国家形成期の諸問題』山川出版社 pp.389-394
- ・上野祥史 2020「古墳時代中期の鏡と入西石塚」『入西石塚古墳出土遺物整理報告書』『坂戸市教育委員会 pp.41-54
- ・上野祥史 2020「下北方5号地下式横穴墓の鏡と保有の意義—古墳時代中期中葉の鏡の分与・分配—」『下北方5号地下式横穴墓』宮崎市文化財調査報告第128集 宮崎市教育委員会 pp.257-266
- ・大賀克彦 2020「下北方5号地下式横穴墓出土の玉類」『下北方5号地下式横穴墓』宮崎市文化財調査報告第128集 宮崎市教育委員会 pp.241-256
- ・大賀克彦 2020「ガラスの材質分類と時期区分」『いにしへの河をのぼる—古川登さん退職記念献呈考古学文集—』『いにしへの河をのぼる』制作委員会 pp.55-64
- ・大賀克彦 2020「天王塚古墳の玉類」『特別史跡 岩橋千塚古墳群—天王塚古墳 2次・3次発掘調査報告書—』和歌山県教育委員会 pp.129-134
- ・大賀克彦 2021「唐堀遺跡1号古墳出土ガラス小玉の鉛同位体比」『唐堀遺跡(1)』公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第672集 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.188-190
- ・大賀克彦 2021「金井下新田遺跡1区6号竪穴建物出土人骨着装の首飾りについて」『金井下新田遺跡《古墳時代以降編》 分析・論考編』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第689集 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.297-304
- ・大賀克彦 2021「金井下新田遺跡出土管玉に関する検討」『金井下新田遺跡《古墳時代以降編》 分析・論考編』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第689集 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.457-466
- ・大賀克彦 2021「猪ノ鼻(1)遺跡出土の玉類」『猪ノ鼻(1)遺跡』青森県埋蔵文化財センター調査報告書第616集 青森県埋蔵文化財センター pp.190-202
- ・大賀克彦 2021「古代日本における瑪瑙製玉類の生産と流通」『명품의 탄생 : 보석의 고고학』(51th International Conference of Academy of Asian Studies) pp.81-103
- ・大賀克彦 2022「布留遺跡出土の玉類と玉生産」『ここまで判った布留遺跡—物部氏以前とその後—発表資料集』 pp.59-63
- ・大賀克彦・田村朋美・池田征弘 2021「兵庫県出土鉛製耳環の鉛同位体比とその考古学的評価」『兵庫県立考古博物館研究紀要』第14号 兵庫県立考古学博物館 pp.101-108
- ・金 宇大 2020「大加耶系龍鳳文環頭大刀の成立—東亜大学校石堂博物館所蔵龍鳳文環頭大刀を起点に—」『柳

本照男さん古稀記念論集—忘年之交の考古学—』柳本照男さん古稀記念論集刊行会 pp.171-180

- ・金 宇大 2020「日本列島出土母子大刀の系譜とその意味」『羅州丁村古墳出土母子刀の製作技術復元』国立羅州文化財研究所 pp.171-193
- ・金 宇大 2020「大加耶 垂飾付耳飾 製作と展開過程」『欧亜考古と文化 慶北大学校考古人類学科 40 周年記念論叢』慶北大学校考古人類学科 pp.513-540
- ・金 宇大 2021「日本列島出土三葉環頭大刀の系譜」『昼飯の丘に集う—中井正幸さん還暦記念論集—』「中井正幸さんの還暦をお祝いする会」事務局 pp.63-72
- ・金 宇大 2021「蕨手刀の始源に関する一考察—張出双脚金具の構造から—」『滋賀県立大学考古学研究室論集 I』滋賀県立大学考古学研究室 pp.157-166
- ・金 宇大 2021「日本列島出土新羅系垂飾付耳飾の意義—静岡県掛川市五塚山古墳出土垂飾付耳飾の検討から—」『技と慧眼—塚本敏夫さん還暦記念論集—』塚本敏夫さん還暦記念論集事務局 pp.209-220
- ・金 宇大 2021「日本列島出土三葉環頭大刀の系統とその性格」『考古学雑誌』第 104 巻第 1 号 日本考古学会 pp.1-42
- ・金 宇大 2021「伝榛原町出土単鳳環頭大刀把頭をめぐる問題」『古墳文化基礎論集』古墳文化基礎論集刊行会 pp.127-136
- ・金 宇大 2022「滋賀県竜王町山面老々塚出土単鳳環頭大刀把頭の検討」『淡海文化財論叢』第 14 輯 淡海文化財論叢刊行会 pp.81-86
- ・阪口英毅 2019「短甲編年と頸甲」『和の考古学—藤田和尊さん追悼論文集—』ナベの会 pp.151-162
- ・阪口英毅 2019「頸甲・肩甲編年再構築のための予備的検討」『古墳と国家形成期の諸問題』山川出版社 pp.401-406
- ・吉澤 悟 2019「正倉院宝物にみる「使用痕」」『古墳と国家形成期の諸問題』山川出版社 pp.448-453
- ・吉澤 悟 2020「二つの忍性骨蔵器—大和・額安寺と同・竹林寺出土の銅製骨蔵器の調査—」『鹿園雑集』第 22 号 奈良国立博物館 pp.49-73
- ・吉澤 悟 2020「犀文様について」『第 72 回 正倉院展』奈良国立博物館 pp.125-127
- ・吉澤 悟・鳥越俊行 2021「大和・額安寺の忍性五輪塔に納められた骨蔵器群」『鹿園雑集』第 23 号 奈良国立博物館 pp.45-74
- ・吉田 広 2019「武器形青銅器の東進」『淡路島・松帆銅鐸と弥生社会（季刊考古学・別冊 28）』雄山閣 pp.94-108
- ・吉田 広 2020「特別講演『近畿型銅戈と青谷上寺地遺跡』の記録」『青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2018』 pp.1-19
- ・吉田 広 2020「青銅器片の流通」『弥生時代の東西交流—広域的な連動性を考える—』考古学リーダー 27 六一書房 pp.245-248
- ・吉田 広 2020「古谷尾ノ端遺跡出土の銅剣について」『古谷尾ノ端遺跡 古谷仙田岡遺跡 古谷横枕遺跡 古谷立丁遺跡 古谷高木遺跡 古谷坪ノ内遺跡 古谷シヨクガ谷遺跡』愛媛県埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査報告書第 199 集 愛媛県埋蔵文化財センター pp.735-747

#### 口頭発表・講演等

- ・岩本 崇 2019.6.15「既掘考古資料の再検討と山陰の考古学研究」『山陰地域研究の最前線』島根大学法文学部山陰研究センター 15 周年記念行事（於：島根大学）
- ・岩本 崇 2019.7.27「黄泉国訪問神話と古墳時代出雲の葬制」『第 550 回風土記の丘教室・令和元年度ガイド養成講座 1 回目』（於：島根県立八雲立つ風土記の丘）

- ・岩本 崇 2019.9.28「三角縁神獸鏡と宮谷古墳の時代」『徳島市立考古資料館令和元年度考古学入門講座』（於：徳島市立考古資料館）
- ・岩本 崇 2019.11.09「魏晋代における華北系鏡群の編年と三角縁神獸鏡」『第 554 回考古学研究会岡山例会』（於：岡山大学）
- ・岩本 崇 2020.2.01「荒尾南遺跡の青銅器と古墳出現前後の青銅器生産」『荒尾南遺跡を読み解く～集落・墓・生業～』第 34 回考古学研究会東海例会（於：大垣市サイトピアセンター）
- ・岩本 崇 2020.12.06「「伝世」した同範鏡一鳥取県中西尾 6 号墳出土鏡をめぐる」『島根考古学会 2020 年度 12 月例会』（於：米子市埋蔵文化財センター）
- ・岩本 崇 2021.3. 07「東之宮古墳の鏡」『東之宮古墳の研究はどこまで進んだのか』第 4 回東海古墳時代研究会（於：犬山市民交流センター〔リモート参加〕）
- ・岩本 崇 2021.5. 15「いわゆる「奥才型木棺」と古墳時代の集団関係」『かしまの歴史・文化を学ぶ会 令和 3 年度講座』（於：鹿島ふれあい館）
- ・岩本 崇 2021.9.18「沖ノ島の鏡」『令和 3 年度世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群公開講座』（於：世界遺産ガイダンス施設 海の道むなかた館）
- ・岩本 崇 2022.1.08「「伝世鏡論」再考」『令和 3 年度島根大学総合博物館アシカル講座 第 2 ステージ』（於：島根大学）
- ・岩本 崇 2022.9.25「古墳時代の出雲」『第 582 回風土記の丘教室』（於：島根県立八雲立つ風土記の丘）
- ・岩本 崇 2022.12.03「中期古墳の広域編年と暦年代」『中期古墳研究の現状と課題～新編年で読み解く地域の画期と社会変動』中国四国前方後円墳研究会第 25 回研究集会（於：島根大学）
- ・岩本 崇 2022.12.17「「副葬品からみた古墳時代前・中期の首長墓系譜」『首長墓系譜の再検討』古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム 古代学研究会（於：大阪歴史博物館）
- ・諫早直人 2020.11.01「日向における馬生産のはじまりと国宝馬具の系譜」『国際シンポジウム「国宝馬具とその時代～古代日向への騎馬文化の導入と展開～」』（於：宮崎県立西都原考古博物館）
- ・諫早直人 2021.11.21「鐙の出現—騎馬東伝の原動力」『人文研アカデミー 2021 シンポジウム「考古学からみた古代東アジアの馬利用」』（於：京都大学人文科学研究所）
- ・諫早直人 2022.8.27「魏晋の馬具と東北アジア」『黒川古文化研究所・西宮市・西宮市教育委員会共催第 68 回夏季講座「魏晋南北朝—それぞれの生活と文化」』（於：西宮プレラホール）
- ・諫早直人 2022.12.03「馬具の暦年代論と古墳時代中期の対外交渉」『中国四国前方後円墳研究会 第 25 回研究集会「中期古墳研究の現状と課題～新編年で読み解く地域の画期と社会変動～」』（於：島根大学）
- ・大賀克彦 2021.11.07「玉類の生産と流通からみた古墳時代社会の変化」『令和 3 年度秋季特別展 玉からみた古墳時代 講演会』（於：大阪府立近つ飛鳥博物館）
- ・大賀克彦 2019.11.17「玉からみた天王塚古墳と古墳時代の紀伊」『令和元年度秋期特別展関連シンポジウム 2 副葬品から天王塚古墳を考える』（於：和歌山県立紀伊風土記の丘）
- ・大賀克彦 2021.11.25「古代日本における瑪瑙製玉類の生産と流通」『명품의 탄생 : 보석의 고고학』[51th International Conference of Academy of Asian Studies]（於：オンライン）
- ・大賀克彦 2022.9.17「布留遺跡出土の玉類と玉生産」『ここまで判った布留遺跡—物部氏以前とその後—発表資料集』pp.59-63（於：なら歴史芸術文化村）
- ・大賀克彦 2023.2.25（予定）「碧玉製管玉について（仮題）」『公開講座 第 15 回ひたちなか市の考古学 —弥生時代の玉—』（於：ひたちなか市埋蔵文化財調査センター）
- ・金 宇大 2020.10.3「製作技法の追究は何を明らかにするのか—半島系大刀工人の「技量」—」『「考古学」

大勉強会—構造と行為』(於:オンライン)

- ・金 宇大 2020.12.19「兵庫県域における外来系装飾付大刀の様相とその流通背景」『第26回兵庫考古学談話会』(於:オンライン)
- ・金 宇大 2021.3.21「金工品からみた5世紀の東アジア」『特別展「海を越えたつながり—倭の五王と東アジア—」講演会』(於:堺市博物館)
- ・金 宇大 2022.12.11「装飾付大刀生産の拡大と外来技術工人」『第18回古代武器研究会』(於:元興寺文化財研究所総合文化財センター)
- ・吉田 広 2019.9.28「日本列島の初期青銅器文化—梶栗浜遺跡出土の朝鮮半島系青銅器を読み解く—」『下関市立考古博物館令和元年度一般教養講座第2回・特別展「至宝しものせき—梶栗浜遺跡と弥生の墓制—」』(於:下関市立考古博物館)
- ・吉田 広 2019.10.19「荒神谷銅剣のルーツを探る」『荒神谷博物館講演会第170回』(於:荒神谷博物館)
- ・吉田 広 2020.9.6「加茂宮ノ前遺跡の銅剣関連資料をめぐって」『『2020 発掘とくしま』講演会』(於:徳島県埋蔵文化財センター)
- ・吉田 広 2021.7.18「青銅器からみた東予・中予・南予」『令和3年度歴史文化講座』(於:愛媛県歴史文化博物館)
- ・吉田 広 2021.7.24「対馬・壱岐—魏志倭人伝の道—」『令和3年度愛媛大学公開講座 世界の都市と地域(9)』(於:愛媛大学)
- ・吉田 広 2021.9.25「土生遺跡が語る青銅器文化のはじまり」『令和3年度佐賀県立博物館・美術館セミナー』(於:佐賀県立博物館・美術館)
- ・吉田 広 2021.9.26「鐸と剣の系譜」『令和3年度 よみがえる邪馬台国特別記念フォーラム』(於:吉野ヶ里公園歴史公園)
- ・吉田 広 2021.11.6「近江の青銅器文化—大岩山銅鐸への階梯とその周辺—」『野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)第84回銅鐸研究会』(於:野洲市歴史民俗博物館〔銅鐸博物館〕)
- ・吉田 広 2022.2.23「弥生青銅器祭祀の転換」『国立歴史民俗博物館共同研究公開セミナー「近畿地方における弥生時代—古墳時代初頭の金属器生産と社会」』(於:同志社大学〔リモート参加〕)
- ・吉田 広 2022.3.29「日本列島における青銅器文化の始まりと特色」『令和3年度 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業シンポジウム「弥生人青銅器と出会う—朝鮮半島から吉野ヶ里、近畿へ—」』(於:佐賀県〔リモート参加〕)
- ・吉田 広 2022.10.19「3Dデジタルレプリカを用いた青銅器鋳型資料研究の可能性」『崇実大学校歴史文物研究所第1回海外碩学公開講座』(於:韓国崇実大学校)
- ・吉田 広 2022.10.21「日本列島における小型青銅利器の展開」『日韓共同学術シンポジウム 清州五松出土多鈕細文鏡調査研究 朝鮮半島の青銅器製作技術と東アジアの古鏡II』(於:韓国国立清州博物館)
- ・吉田 広 2022.11.5「近畿における武器形青銅器生産」『東奈良遺跡銅鐸鋳型発見50周年プレ事業2022シンポジウム“銅鐸から弥生時代社会を見直す”』(於:茨木市立生涯学習センター)
- ・吉田 広 2022.11.27「青銅器から見た島根の弥生時代」『しまねの歴史文化 研究最前線 30年間を彩る発見! 論争! 第3講』(於:松江テルサ)
- ・吉田 広 2022.12.11「平形銅剣はどこで作られたのか」『愛媛大学包括連携事業 令和4年度特別展『愛大発掘—すごいぞ! 文京遺跡—』講演会』(於:松山市考古館)

(岩本 崇)